

キャンパスの インテリジェント化と 総合メディア基盤センター の使命

総合メディア基盤センター長 森本 章治



総合メディア基盤センター長の森本です。2014年4月の就任からほぼ1年になります。2013年度までは、キャンパス・インテリジェント化担当学長補佐として、学内各種サービスのICT化推進や情報セキュリティ対策等の業務を担当して参りました。これらはいずれも本センターの重要な業務の一部ですが、本センターが所掌する業務はそれらにとどまらず、情報教育、学術情報、情報基盤というように、金沢大学の教育・研究・業務全般を支える広範なサービス領域に拡大しています。まさに、電力、上下水道、ガス、道路等に相当する、あるいはそれ以上の新たなインフラになっています。

近年、本センターは学内ネットワークを効率的に整備して、ICTを利用したサービス範囲を拡大し、本学の教育・研究・業務全般にわたるサービスの充実と効率化を進めてきました。シングルサインオンを基盤としたアカンサスポータルを窓口として、例えば、掲示板、メッセージ、時間割管理・履修登録・シラバス・電子教材等の学習支援、電子職員録・教材データベース・履修者管理・成績入力システム・教員情報データベース・予算執行等の教育・業務支援システム、webメール、オンライン図書館、マイクロソフト包括ライセンス契約によるOS・ソフトウェアの無償提供等、多くのサービスが一組のIDとパスワードで利用可能となっています。そのサービスの範囲は大学の教育・研究・管理の全業務へと拡大し続けています。

逆に言えば、万が一これらのサービスの一部が何らかの原因で止まると、学内の各種業務に甚大な影響が及ぶこととなります。しかしながら残念なことに、本学・我が国はもとより世界中で、コンピュータウイルスによるPCの感染、PCやUSBメモリの紛失・盗難、ID・パスワードの窃取といった様々な原因で、個人情報漏洩したりPCが乗っ取られ踏み台にされて犯罪に使用されたりして、当該組織や個人を含め多くの方が被害者となる事案が後を絶ちません。本学でのこのような事案発生をできるだけ防ぐため、本センターでは学内のネットワークやサーバーを一元管理する方向で、業務改革を行っています。これまで各部局で対応していた各種管理業務を一元化により効率的に行うことが重要です。しかし、安全で安心な情報環境の維持管理はただではなく、それなりのコストがかかります。私たちは、学内インフラとして安全・安心な情報環境を持続的に提供することが本センターの使命と認識しています。皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

一方、ユーザの立場からの学生や教職員の皆様からのご要望は、サービス向上の非常によい動機付けになるかと思えます。本センター教職員も一丸となってサービスの向上に励むつもりです。金沢大学の構成員の皆様からの暖かいご支援・ご協力をお願いしたいと思います。